

みんなの「真国立競技場」実現のために、以下のことを基本事項として下さい

私たち「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は 2013 年 10 月 28 日に活動を始めた。歴史的町並みや文化財の保存活用、自然景観の保全やまちづくりに関心を寄せる一個人の集まりだ。

活動の発端は、JIA マガジンに掲載された楨文彦氏の論考に深く共感したことによる。以来、建築・歴史・都市計画・スポーツ施設・ファシリティマネジメント・ヒートアイランド等の自然環境など、さまざまな分野の専門家をお招きして公開勉強会を開催し、知見を深めていった。その中で、1964 年の東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場を現代の技術でリノベーションして使い続けることの主張は間違いでないことを確信した。

しかし、国立競技場は解体された。競技場跡地として更地になった現状を見ると、私たちが残し再生させたかった競技場も神宮の森の中にあつては巨大すぎたことが実感される。このまま、何も建てずに原っぱにして神宮の森を再生したいという声にも深く共感するものである。

あらゆる機能を盛り込みすぎた無目的スタジアムが 2520 億円(3000 億以上とも)で承認された時、私たちは国民一人一人の気持ちを届けるために国会請願活動を始めたが、国民の猛烈な批判の中で計画は白紙撤回された。

白紙撤回された新国立競技場計画は今後どこへ行くのか。これまでの私たちの知見を整理し、以下を要望する。

1. 建設費は 世界のスタジアム建設に要した費用と同等、上限1000億円以下とし、建設費だけでなく維持管理費、ライフサイクルコストも考慮する。
2. 神宮外苑の歴史と景観に考慮した旧国立競技場を手本とし、神宮外苑の景観とヒートアイランド対策としての風の道を確保するため、出来るだけ高さを抑えること。
3. 屋根は客席の上部のみとして、芝の育成と維持管理を考慮してフィールドを被うような可動式屋根はつけない。
4. 固定座席は5万席程度とし、それ以上は仮設座席とし、オリンピックパラリンピック終了後は減築により維持費削減をはかり、幅広い年代の人が利用しやすい競技場とする。
5. VIP 用施設やホスピタリティスペースの割合は 諸外国のオリンピックスタジアムの実績に準じた広さに縮小する。
6. 常設のサブトラックを設置する。絵画館前の軸線を壊す仮設サブトラックは認めない。
7. JSC 新社屋ビルの建設計画を見直す。
8. toto の売り上げは本来の目的である地域スポーツ振興に使い、競技場建設費には使わない。
9. 新国立競技場計画において関連敷地とされ、強制立ち退きを迫られている霞ヶ丘アパートは改修して一部を存続させ、森の中に高齢者が居住できるモデル住居とする。
10. 日本学術会議の提言を尊重して、神宮外苑の深い森の創出を実施する。樹木から建物が突出しないような高さ制限に見直す。
11. 以上のことをふまえ、建築、環境の専門家、市民、アスリート、法律家などを含む第三者委員会を設置し、基本条件を作り直す。

以上

2015 年 7 月 30 日
神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会
共同代表 一同